子育て世代を応援するまち タカサキの保活事情

市長対談 ほっとTタイム

全国に先駆けてさまざまな子育て世代の応援施策を進めている本市は、平成25年度から「待機児童ゼロ」を達成し継続しています。この取り組みをさらに進め、希望する保育所(園)に必ず入れるような完全待機児童ゼロを目指していきます。その他、安心して子どもを預けられる体制づくりに挑戦しています。保育所(園)の入所の受け付けを年2回から通年にし、入所の可否を2週間以内に返答する2019年度からの取り組みもそのひとつ。今回は子育てに奮闘するパパさん・ママさんと保育所の運営者を迎え、保育所入所のために行う活動、いわゆる「保活」事情や高崎の保育環境についてお話を伺います。

完全待機児童ゼロを目指して 入所は原則2週間で決定

富岡 賢治市長

保活での保護者の負担を軽減し、完全待機児童ゼロのまちを作りたいと考えている

市長　7年前に私が市長に就任したころ、全国的な待機児童の問題について市内の状況を確認したら、待機児童はいないということで安心したんです。でも、ある保育所のお母さんたちと話す機会があったときに「入るところを見つけるのに大変だった」という話を聞いてびっくりしました。その当時の待機児童ゼロというのは、入所を希望する人数と受け入れる園の数を市内全域で考えていたんです。例えば旧市内で希望する人がいて、倉渕地域の園に空きがあれば待機ゼロということです。でも実際には預けられませんよね。それで、問題を解決するにはなんでもやろうと決意して、近くの園に入れるような体制づくりに取り組みました。将来的には、希望する保育所に必ず入れるような完全待機児童ゼロが目標です。まず山田さん、保育所はスムーズに決まりましたか?

山田　上の子のとき、9~10月ごろに申請した1次募集は全てダメで、1月からの2次募集でなんとか入れていただきました。

市長　そうすると半年ほど不安な状態が続いたことになりますね。

山田　そうですね。妻が4月に仕事の復帰を考えていたので何とかギリギリ間に合いました。

市長　そんな状況を改善しなければいけません。だから入所希望の申し込みを随時受け付けて、申し込みが集中する4月以外は2週間以内に可否を返答するようにしようと考えています。こうした取り組みは全国でもありません。できるだけ条件の良い保育所を見つけられるよう、みんなで努力していこうと思っています。

ニーズに合った保育環境を

関口 ゆかりさん

年長児から高校生まで4男2女の6人の母。市保育協議会保護者会会長。浜川町在住

市長　待機児童の問題や入所の受け付けについては保育協議会にもご苦労いただいていますが、粕川さん、現場ではなかなか難しいでしょう?

粕川　そうですね。保育所は、家や職場に近い所を選ぶ人が多いですからね。受入数を増やさなければならない地域は、必然的に人口が多い所になりますが、そうした地域の保育所を増築するにしても、例えば庭を削ってまではできませんからね。

市長　まちなかにマンションなどが建って若い世代が増えていますが、保育所がないんですよね。群馬地域も人口が増えています。例えば増築する場合、敷地内にこだわると無理があるので、これも全国には無いと思いますが、保育所を造るときの土地取得についても応援しようと考えています。関口さんは保育所をどのように決めましたか?

関口　私は家の近くの園に決めました。でも周りからは園の様子などをよく聞かれますよ。うちは一番下の子が園に通っています。高校1年の上の子のときは、待機児童という言葉自体がまだ無かったと思います。ありがたいことに、みんな同じ園でお世話になっています。でも弟の家などは一時別々の園に預けていたこともありました。

山田 聡さん

保育所に通う2歳児と小学生の2人の子どもの父。下佐野町在住

市長　それは大変ですよね。保育所を探す苦労を最低限なくさなくちゃいけないと思いますよ。黒田さんは現場の立場ですが、ご自身のお子さんも保育所に預けたんですか?

黒田 淑子(よしこ)さん

はちの木こども園園長。中学生と高校生の2人の子どもの母。倉賀野町在住

黒田　はい。子どもにアレルギーがあって、園を探すのに苦労しましたね。17年ほど前ですが、職員の子どもは自分の園では預かれないということもあり、園長の私が育児休暇を取ることもできなかったので。今はうちの園でも看護師が3人いてアレルギーの子にも対応できますし、職員の子どもも預かっています。育休や産休なども含めて、いろんな意味で今は良くなってきていると感じますね。

市長　以前はお母さんが産休などで家にいると子どもの面倒が見られるということで、園に預けている上の子どもは辞めさせられていました。これではお母さんが大変だということで、上の子の継続入所ができるようにしたんです。また例えば、山田さん、お子さんが熱を出したときなどはどうしていますか?

山田　祖父母に預かってもらうか、夫婦どちらかが休んで子どもを見ていますね。

市長　そんな子どもを預かる病児保育所が以前は2か所しかなかったんですが、今は3か所に増やしました。今後も増やしていこうと考えています。仕事を休むのも大変ですからね。

保育の質を高める人材の確保

粕川 泰彦さん

愛隣保育園園長。小学生と中学生の2人の子どもの父。飯塚町在住

市長　私は、単に場所を増やせばいいということではなく、専門の保育士さんがちゃんと子どもを見てくれるシステムにしていきたいんです。粕川さん、保育士の採用は大変ですか?

粕川　はい。保育士の養成校を卒業しても、ニーズの高い都心部で就職してしまったり、保育士にならなかったりする人もいます。あと毎日のように保育の話題が報道されて「保育士は大変」と考えられている気がしますね。

関口　私は保育士さんから離乳食などの指導をいただき、子育てを手伝ってもらっているという感覚ですよ。

黒田　命を預かっているので大変なのは確か。でもお母さんお父さんと子どもの成長を共有できる、すごく楽しい仕事なんですよ。

市長　保育士の採用に関して、説明するだけでは今のようなことは実感できないので、保育の現場を巡るバスツアーをやっているんです。

粕川　現場の保育士はキャリアを積んだ先生の方がやりがいを感じているようです。こうしたやりがいを若い学生さんに伝えるのはなかなか…。

市長　難しいですよね。だから子育てなどで現場を離れた、保育士の資格を持った人たちを採用につなげられないかと考えているんですが。

黒田　知り合いのお母さんが、いわゆる潜在的な保育士さんだったんですが、バスツアーに参加していましたよ。

関口　子どもを保育所に預けているお母さんたちの中に、保育士になろうと勉強している人もいますね。

粕川　うちに派遣で来てもらっている先生に、会社勤めを辞めて保育士の資格を取った人がいます。近道は、潜在保育士をどう職場に復帰させるかということでしょうが。

市長　潜在的な保育士さんに特化して受け入れる事業のようなものもいいですね。完全待機児童ゼロの先には、質を高めた選ばれる保育所というようにしていきたいと考えています。今後とも皆さんのご協力をお願いします。本日はありがとうございました。

一同　ありがとうございました。